

市議会の会議の様子を自由にご覧いただけます

Q 市議会の会議を見たいのですが

A 各種会議を公開しています。

※16歳未満の人は、成人の付き添いが必要です。

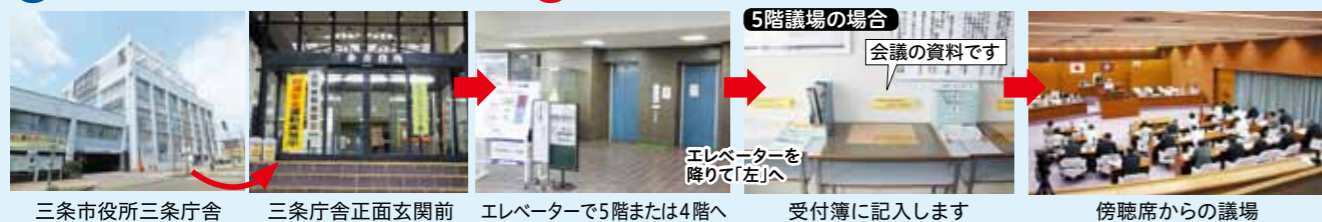
次の会議が傍聴できます。

- 3、6、9、12月 ★定例会(全議員で構成する会議。上程された案件を審議)
上程：会議に議案としてのせること
- 必要に応じて ★臨時会(定例会では間に合わない場合に開催し、上程された案件を審議)
- ★各派代表者会議(各会派の代表者間の会議)
- ★議会運営委員会(議会の議事運営を協議)
- ★常任委員会(上程された案件を分野ごとに審査)
[総務文教、市民福祉、経済建設の3委員会]
- ★特別委員会(特定の案件の調査、研究を行う)
[高等教育機関調査特別委員会]
- ★全員協議会(市政に関する重要な事項等を協議または調整)
- ★常任委員協議会(常任委員会の所管に関する事項を協議または調整)
- ★議会報編集委員会(市議会だよりの編集)

開催日は、市ホームページ、市議会だよりで等でお知らせします。

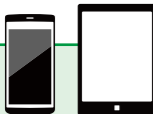
Q どこに行けばいいのですか？

A 定例会や臨時会の本会議は三條庁舎5階、その他は4階です。



三條市役所三條庁舎 三條庁舎正面玄関前 エレベーターで5階または4階へ 受付簿に記入します 傍聴席からの議場

インターネットで市議会の模様を配信しています



スマートフォンやタブレットでも

定例会や臨時会の本会議の様子は、録画中継でご覧いただけます。なお、録画中継は正式な会議録の公開前に、本会議での議員や市長等の発言を動画で配信するものです。

視聴の方法は

三條市ホームページの市議会のページへをクリック
(三條市ホームページのアドレスは <http://www.city.sanjo.niigata.jp/> です。)



さらに「インターネット議会中継」三條市議会インターネット議会中継トップページへをクリック

視聴したい会議を選択してご覧ください。(検索は会議名、議員名、会派名、質問項目を対象としています。)

【決算審査特別委員会 審査レポート】

総務文教分科会 岡田竜一 主査

学校のクラブ活動 今後も連携して学校を支援

歳入では、収納率向上の工夫について、法律によって決められたものを粛々とやっている。28年度収納率が上がった要因は、今までのやり方を踏襲しては変わらないのではということで、滞納者の状況やどのようなアクションを起こしているかを一覧表にし、管理職がいろいろとアドバイスしながら進めてきたからとのことでした。

歳出では、学校のクラブ活動について、28年度までの状況は、教職員の多忙化解消ならびに部活動の専門性を高めるため、スポーツ振興室と連携し部活動指導補助者の配置を進め、2人、3人という配置が、29年度は7人

と増員を図ることができ、学校を支援していただいている。また、ボランティアという形で部活動を支援していただく地域の方々も大勢おられることから、積極的に部活動指導補助者に登録していただけるようスポーツ振興室と連携しているとのことでした。

また、複式学級への対応について、県の人事権の中で思うようにならない部分は多くあるが、そういった現場の部分も十分承知しているため、より良い方法を改めて検討していきたいとのことでした。



市民福祉分科会 笹川信子 主査

市内全域の空き家を調査した結果、極めて危険なものを3件確認

障がい者工賃アップアドバイザー業務委託の成果について、福祉事業所への商品開発や販路開拓に関するアドバイスにより、1カ月当たりの工賃が平成27年度と比べて約千円上昇したとのことでした。

空き家実態調査の結果とそれを踏まえた対応について、調査を受託した業者が市内全域の空き家を4段階で判定し、良好または利用可能が411件、再生可能が140件、老朽が86件、危険が1件という結果であった。これに自治会等からの通報で市が把握していた情報を併せて現地調査を行ったところ、倒壊の恐れがあるなど極めて

危険な状態の空き家を3件確認した。これらの所有者等に対しては、引き続き指導を徹底していきたいとのことでした。

介護保険事業特別会計で不用額が多額になった要因について、この10年間、三條市では、認定者数全体の伸びが鈍く、要介護3から5の認定者数に関しては減少していること、要介護認定率が全国、新潟県とも上昇している中で若干ながら低下していることなどを考え合わせると、元気な高齢者が増えているからと言えるのではないかとのことでした。

経済建設分科会 坂井良永 主査

三條市にしかできない擦り合わせ型のものづくりを

農業担い手確保育成事業の参加者募集状況について、価格決定力を持って下田地域で農業を実践することはハードルが高いと考えられる面があることや、事業の周知が行き届かなかったことがあると捉えている。その中においてもSNSでの発信や農業フェアへの参加、農業大学校における募集活動などを行っているとのことでした。

リアル開発ラボについて、この目的は三條市あるいは日本にしかできない擦り合わせ型のものづくりを実現するところにある。参加企業が募集枠を下回っているが、事

業の方向性は間違っていないと考えており、参加者を増やすとともに業界と意見交換しながらどのように事業を行っていくのか検討したいとのことでした。

道路の新設工事における1区間当たりの延長について、市民からすれば費用面で効率の良い長い区間、建設業者からすれば短い区間が望まれる傾向があるが、どちらかに偏ることはなく、地域住民としての立場も地域において災害対応や除雪等を担っていただく建設業者の維持、育成も共に重要と捉えているとのことでした。